



鎮魂の祈り 復興への希望

大槌町の「大槌まつり」が9月19日から3日間、大槌稲荷神社の宵宮祭、神輿渡御、小鉾神社の宵宮祭、神輿渡御の順番で繰り広げられました。鹿子踊、大神楽、虎舞などの郷土芸能が、勇壮、華麗な舞で祭りを盛り上げました。鎮魂の祈りと復興への希望を託した祭りをドキュメントで追いました。

▼祭りに向けて

◇9月10日

【午後1時】震災後4回目の祭りの祭り。盛り土で通行止めの場所が多いが、祭りを出来るだけで幸せ。復興への力になる。中須賀大神楽保存会会長で町郷土芸能保存団体連合会事務局長の蛇口久夫さん(66)。

【午後2時】大槌稲荷神社は昨年、神輿を出せなかった。二つの神社の神輿渡御がそろうのは2年ぶり。宮司の十王館正一さん(82)は「2年続けて神輿を出さないわけにはいかない。犠牲者の霊を弔うためにも今年は出す」。

【午後4時】小鉾神社の神輿は震災後、初めて小鉾川に入る。「川で犠牲になられた方々もおられ、ずっと気になっていた」と小鉾神社宮司の松橋知之さん(45)。

◇9月14日

【午前9時】小鉾神社の神輿を担ぐ社人が境内で、「観音神輿」「明神神輿」を手入れ。「担ぎ手60人で2基の神輿を出せますが、100人近く集まるでしょう」と社人会長の三浦順さん(41)。

◇9月17日

【午後7時】祭りを2日後に控えて金澤神楽が大槌第7仮設団地の集会所で稽古。「各団体が稽古場を確保するのに苦労しています」と保存会会長の大久保正人さん(59)。

▼大槌稲荷神社宵宮祭

◇9月19日

【午後6時30分】大槌稲荷神社の宵宮祭。夕闇が迫る境内に郷土芸能の各団体が集う。先頭は松の下大神楽。笛、鉦、太鼓が鳴り響き、「そーりや、そーりや」の掛け声。9団体が順番に舞い、終了は午後9時。

▼大槌稲荷神社神輿渡御

◇9月20日

【午前8時】快晴。担ぎ手不足が心配されていた神輿渡御がスタート。「声出せ」「声出せ」と叱咤されながら神社の急な石段を下りる。神輿は郷土芸能10団体とともに長い隊列を組みながら、「源水」「大ヶ口団地」「復興きらり商店街」「旧安渡小」などの御旅所を経由して魚市場の「お祭り広場」へ。

【午後12時50分】20日は彼岸の入り。旧安渡小から魚市場に向かう道端に生花と線香が供えられている。安渡では震災で、人口の1割を超える218人が犠牲に。

【午後1時】お祭り広場に到着。岸壁の漁船が大漁旗を掲げて祝う。上京鹿子踊から金澤神楽まで6団体が演舞。

【午後3時】お祭り広場を出て、「惣川」「古学校」に向かう。

【午後4時20分】神輿が渡御を終えて神社参道の石段前に着く。急な石段を一気に駆け上がる前に、10分ほど休憩。

【午後4時50分】神輿が難所を越えて神社に戻り、神輿に乗せられていたご神体を本殿に戻す。担ぎ手のメンバーが3本締めで締めくくる。

【午後5時】町役場の多目的会議室で「大槌町応援職員会」の総会が開会。年1回の総会を祭りに合わせて開催。

【午後6時】三陸花ホテルはまぎくで、「おおつちまつり」で会いましょう!」の交流会開会。町社会福祉協議会